

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	豊後 貴嗣
所属機関名	獣医学部獣医保健看護学科
職位	教授
在籍年	3.5

教育の責任

獣医保健看護学科に所属していて、本学科において専門教育科目の担当をはじめ、卒業研究やキャリア支援に関わる授業およびイベントの企画・運営を通じて、学生の学修および進路形成を幅広く支援している。また、卒業研究指導のためのゼミ担当として学生の研究活動を継続的に支援するほか、学科長として学生一人ひとりの学修状況や生活面におけるサポートも行っている。さらに、就職活動に向けた個別指導に加えて、企業の人事担当者との連携窓口としての役割も担い、学外との橋渡しの役割を果たしている。これらの業務を通じて、教育者としての責任を自覚し、学生が安心して学び、成長できる環境づくりに努めている。

- ・産業動物学
- ・愛玩動物学
- ・動物栄養学

教育の理念

学生一人ひとりの可能性を尊重し、その成長を支えることが教育者の根幹的な使命であると考えている。大学教育は、単なる知識の伝達にとどまらず、学生が自己理解を深め、主体的に人生を切り拓いていく力を育む場である。学生が自ら学び、挑戦し、失敗を糧に成長していけるような「安心して試行錯誤できる環境づくり」を重視している。また、研究指導やキャリア支援、学外との連携を通じて、学生の学修や進路に寄り添うことは、教員の重要な責務であると同時に、社会との接点を意識した教育を実現するための鍵であると捉えている。教員としての関わりが、学生にとっての自己形成や社会的自立の一助となるよう、丁寧で継続的な支援を心かけている。

教育の方法・方針

学生の主体的な学びと成長を促すために、対話と信頼関係を基盤とした教育を重視している。講義や演習においては、知識の一方的な伝達に終始するのではなく、学生が自ら問いを立て、考え、他者と協働しながら学ぶ姿勢を育てることを目指している。そのために、アクティブラーニングやグループワーク、フィードバックを積極的に取り入れ、思考を深める機会を設けている。また、研究指導やキャリア支援においては、個々の学生の興味・関心、価値観、将来像に応じた柔軟な対応を心かけている。学修面だけでなく、生活や心理的側面にも目を配り、学生が安心して取り組める環境づくりに努めている。学外の企業や関係機関との連携も通じて、実社会を見据えた実践的な学びを提供し、学生の社会的自立を支援することを教育の重要な柱としている。

教育の成果

担当科目においては、学修到達度を小テスト、定期試験、宿題によって数値化し、成績評価(GPA)に反映させている。その結果、各年度において 90%前後の学生が C 以上の評価で修了しており、到達目標は概ね達成できていると考えられる。さらに、授業外学修時間についても、事前・事後学修に取り組む学生が多く、演習問題や補助教材の提供を通じて理解を深める仕組みが機能していることが確認された。

授業アンケートの結果では、「どちらかといえばそう思う」から「そう思う」と回答した学生が多くを占めており、教育実践の効果は一定の水準に達していると評価できる。一方で、情報量が多いとの意見も寄せられている。これに対しては、オフィスアワーの活用やオンラインでの

質疑応答の場を整備し、授業後の学修支援体制を強化する取り組みを試みている。

今後の目標

今後は、担当学生への直接的な教育活動に加え、生産現場や共同研究先の関係者との情報共有を通じて、学内外に広がる教育活動を推進していきたいと考えている。さらに、学生の学修意識や現場での学習行動の変化を踏まえ、リモート授業ツールやオンライン教材を活用した実践的学修の支援を強化し、学生が安全かつ効果的に技術や知識を習得できる環境を整備することを目標としている。

根拠資料

25 年度授業アンケート（愛玩動物学、動物栄養学）